

入札説明書

【一般競争入札（総合評価落札方式）】

業務名称: 農業分野における中小企業等海外展開支援
及び今後の農業分野の協力方向性に係る情
報収集・確認調査

案件番号: 190042

- 第1 入札の手続き
 - 第2 仕様書
 - 第3 技術提案書作成要領
 - 第4 経費積算に係る留意点
 - 第5 契約管理及び契約金額の確定（精算）に係る留意事項
 - 第6 契約書（案）
- 別添様式集

2019年3月27日
独立行政法人国際協力機構
調達部

本説明書は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が、民間コンサルタント等に実施を委託しようとする業務について、当該業務の内容及び一般競争入札（総合評価落札方式）の手続き等について説明したものです。

応札者は、本入札説明書の記述に基づき、技術提案書・入札書を用意し、提出してください。

第1 入札の手続き

1. 公示

公示日 2019年3月27日

案件番号 190042

2. 契約担当役

理事 植嶋 卓巳

3. 競争に付する事項

- (1) 業務名称：ベトナム国農業分野における中小企業等海外展開支援及び今後の農業分野の協力方向性に係る情報収集・確認調査
- (2) 業務内容：「第2 仕様書」のとおり
- (3) 契約期間（予定）：2019年5月から2020年3月

4. 窓口

郵便番号 102-8012

東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル

独立行政法人国際協力機構

調達部契約第一課

【担当者氏名】松崎 晃昌

【メールアドレス】Matsuzaki.Terumasa@jica.go.jp

※なお、書類の提出窓口（持参の場合）は、同ビル1階 調達部受付となります。

5. 競争参加資格

(1) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則（平成15年細則（調）第8号）第4条に基づき、競争参加資格を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の下請負人（業務従事者を提供することを含む。以下同じ。）となることも認めません。プロポーザル提出時に何らかの文書の提出を求めるものではありませんが、必要に応じ、契約交渉の際に確認させていただきます。

- 1) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者
具体的には、会社更生法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申立てを行い、更生計画又は再生計画が発行していない法人をいいます。
 - 2) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）第2条第1項の各号に掲げる者
具体的には、反社社会勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団員準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。
 - 3) 独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程（平成20年規程（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者
具体的には、以下のとおり取扱います。
 - ① 競争参加資格確認申請書の提出期限日において上記規程に基づく資格停止期間中の場合、本入札には参加できません。
 - ② 資格停止期間前に本入札への競争参加資格確認審査に合格した場合でも、入札執行時点において資格停止期間となる場合は、本入札には参加できません。
 - ③ 資格停止期間前に落札している場合は、当該落札者との契約手続きを進めます。
- (2) 積極的資格制限
当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を追加して定めます。
- 1) 全省庁統一資格
平成28・29・30年度全省庁統一資格を有すること。同資格を有していない場合は、当機構の「簡易審査」を受けていること。
「競争参加者資格審査」の詳細については、当機構ホームページ「調達情報」>「競争資格参加」(<https://www.jica.go.jp/announce/screening/index.html>)を参照のこと。
 - 2) 日本登記法人
日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。
- (3) 利益相反の排除
利益相反を排除するため、本件業務のTOR（Terms of Reference）を実質的に作成する業務を先に行った者、各種評価・審査業務を行う場合であって当該業務の対象となる業務を行った者、及びその他先に行われた業務等との関連で利益相反が生じると判断される者については、競争への参加を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の下請負人となることも認めません。
- (4) 共同企業体の結成の可否
共同企業体の結成を認めます。ただし、業務主任者は、共同企業体の代表者の者とします。
なお、共同企業体の構成員（代表者を除く。）については、上記（2）に規定する競争参加資格要件を求めません。
共同企業体を結成する場合は、共同企業体結成届（様式はありません。）を作成し、技術提案書に添付してください。結成届には、構成員の全ての社の代表

者印又は社印を押印してください。

また、共同企業体構成員との再委託契約は認めません。

6. 入札説明書に対する質問

(1) 仕様書の内容等、この入札説明書に対する質問がある場合は、次に従い提出して下さい。

ア. 提出期限：2019年4月3日（水）正午まで

イ. 提出先：上記4. 窓口

ウ. 提出方法：電子メール、郵送又は持参

（公正性・公平性等確保の観点から、電話及び口頭でのご質問は、原則としてお断りしています。ご了承下さい。）

(2) 上記(1)の質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

ア. 2019年4月5日(金)までに以下の機構ウェブサイト上に掲示します。

国際協力機構ホームページ (<http://www.jica.go.jp/index.html>)

→ 「調達情報」

→ 「公告・公示情報」

→ 「JICA 本部における公告・公示情報」中の「業務実施契約」

→ 「コンサルタント等契約案件公示（業務実施契約）」（検索システム）

イ. 回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認ください。入札金額は回答による変更を反映したものとして取り扱います。

7. 技術提案書・入札書の提出

(1) 締切日時

2019年4月12日（金）正午まで

(2) 提出場所

上記4. 窓口

(3) 提出書類

ア. 技術提案書（提出部数：正1部、写3部）（「第3 技術提案書作成要領」及び「別添様式第2 技術提案書作成要領に関する様式」参照）

イ. 入札書（厳封）（提出部数：正1通）（「別添様式第1 入札に関する様式」参照）

・ 日付は入札執行日として下さい。

・ 代表者の記名、捺印をお願いします。

・ 長3サイズの封筒に入れ、表に件名、社名記入、厳封のうえ提出して下さい。

ウ. 技術審査結果通知書返信用封筒（82円分の切手貼付）

(4) 提出方法

持参又は郵送

注1) 郵送の場合は上記(1)の提出期間内に到着するものに限りです。

注2) 持参の場合、「各種書類受領書」を併せて提出して下さい。郵送の場合

合は不要です。

(5) 技術提案書の無効

次の各号のいずれかに該当する技術提案書は無効とします。

- ア. 提出期限後に技術提案書が提出されたとき
- イ. 提出された技術提案書に記名、押印がないとき
- ウ. 同一提案者から2通以上の技術提案書が提出されたとき
- エ. 既に受注している案件、契約交渉中の案件及び選定結果未通知の案件と業務期間が重なって同一の業務従事者の配置が計画されているとき
- オ. 虚偽の内容が記載されているとき（虚偽の記載をした技術提案書の提出者に対して契約競争参加資格停止等の措置を行うことがあります。）
- カ. 前号に掲げるほか、本入札説明書に違反したとき

8. 技術提案書の審査結果の通知

- (1) 技術提案書は、当機構において技術審査し、技術提案書を提出した全者に対し、2019年4月25日（木）付までの文書をもって通知します。2019年4月26日（金）午前までに結果が通知されない場合は、上記4. 窓口にお問い合わせ下さい。
- (2) 入札会には、技術提案書の審査に合格した者しか参加できません。
- (3) 技術提案書の評価内容については、入札会から2週間以内に申込み頂ければ、日程を調整の上、説明いたします。なお、2週間を過ぎての申込みはお受けしていませんので、ご承知おきください。

9. 入札執行の日時及び場所等

- (1) 日時：2019年5月8日（金）11時30分～
- (2) 場所：東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル
独立行政法人国際協力機構 109会議室

※入札会会場の開場は、入札会開始時刻の5分前となります。1階受付前にて待機いただき、同時刻になりましたら入室してください。入札執行開始時刻に間に合わなかった者は入札会に参加できません。

- (3) 必要書類：入札参加に当たっては、以下の書類をご準備下さい。

- ア. 技術提案書審査結果通知書（写）1通
- イ. 委任状 1通（別添様式集参照。代表権を有する者が出席の場合は不要。）
- ウ. 入札書 2通（別添様式集 第1 入札に関する書式」参照。）
 - 入札書は技術提案書と共に提出して頂きますが、不落の場合、その場で再入札して頂きます。
- エ. 印鑑、身分証明書
 - 代理人が参加する場合、委任状に押印したものと同一印鑑が訂正印として必要になりますので、持参して下さい。
 - 代表権を有する者が出席の場合は、社印又は代表者印に代えて同人の個人印を訂正印として使用することを認めますが、本人であることの確認のため、身分証明書等の提示を求めることがあります。

(4) 再入札の実施

すべての入札参加者の応札額が機構の定める予定価格を超えた場合は、その場で再入札を実施します。

再入札に参加する（再入札に係る入札書を提出する）者は、上記の委任状により再入札に参加する権限が委任されていることと押印された入札書が必要となりますので、ご注意ください。

(5) 書類の修正

入札会場で書類を修正する必要が生じた場合に、以下の手続きが必要となりますので、ご注意ください。

- ・代理人が参加する場合、委任状に押印したものと同一印鑑が訂正印として必要になりますので、持参して下さい。
- ・代表権を有する者が参加の場合は、修正箇所に、社印又は代表者印に代えて同人の個人印を訂正印として使用することを認めますが、代表権者本人であることの確認のため、身分証明書の提示を求めることがあります。

(6) その他

- ・入札会に引き続き、落札者と当機構調達部及び案件主管部にて、契約条件の確認等についての打合せを行う予定ですので、予めご承知お祈りします。

10. 入札書

- (1) 入札は、技術提案書と同時提出済みの入札書を開封します。不落による2回目以降の入札（再入札）は、入札会当日持参した入札書によります。
- (2) 第1回目の入札では、原則代理人を定めず、名称又は商号並びに代表者の氏名を記載し、押印することにより入札書を作成して下さい。なお、再入札の際は、必要に応じ、代理人を定めて下さい。代理人を定める場合は、入札書に代理人の氏名を記載し、押印することで、有効な入札書とみなします。その際、応札者の押印は省略することができます。
- (3) 入札価格の評価は、「第2 仕様書」に対する総価（円）（消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、消費税等（総価の8%）を除いた金額）をもって行います。
- (4) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の8（消費税等）に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切捨てた金額）をもって落札価格とします。
- (5) 再入札の場合の入札書は入札金額を記入して、次のいずれかの方法により記名捺印し、封入のうえ、入札担当係員の指示に従い入札箱に投入して下さい。
 - A. 代表権を有する者自身による場合は、その氏名及び職印
 - I. 代表権を有する者以外の者による場合は、委任状を提出のうえ、代理人の氏名及びその者の印
- (6) 入札価格は、千円単位とします。千円未満の端数がある入札価格が提示された場合は、千円未満の端数を切り捨てた金額を入札価格とみなします。
- (7) 応札者は、一旦提出した入札書を引換、変更又は取消することが出来ません。
- (8) 入札者は、入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ入札書を提出したものとみなします。
- (9) 入札保証金は免除します。

(10) 入札(書)の無効

次の各号のいずれに該当する入札は無効とします。

- ア. 競争に参加する資格を有しない者のした入札
- イ. 入札書の提出期限後に到着した入札
- ウ. 委任状を提出しない代理人による入札
- エ. 記名押印を欠く入札
- オ. 金額を訂正した入札で、その訂正について押印のない入札
- カ. 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- キ. 明らかに連合によると認められる入札
- ク. 同一応札者による複数の入札
- ケ. 条件が付されている入札
- コ. その他入札に関する条件に違反した入札

11. 落札者の決定方法

(1) 評価方式

技術評価と価格評価を加算する総合評価落札方式とします。

(2) 評価配点

評価は100点満点とし、技術評価と価格評価に区分し、配点をそれぞれ技術点80点、価格点20点とします。なお、技術提案書は100点満点で評価した上、次の(3)に示される計算方法により、技術点(80点満点)を算出します。

(3) 評価方法

ア. 技術評価

「第2 特記仕様書」の別紙評価表の項目ごとに、各項目に記載された配点を上限として、以下の基準により評価(小数点以下第一位まで採点)し、合計点を技術評価点とします。

- ① 技術提案書の評価の結果、その評点が基準点(技術評価点100点満点中50点)を下回る場合には不合格とします。
- ② 応札者の技術点は以下の評価方式により計算します。
(技術点) = (当該応札者の技術評価点) × 0.8

当該項目の評価	評価点
当該項目については極めて優れており、高い付加価値がある業務の履行が期待できるレベルにある。	90点以上
当該項目については優れており、適切な業務の履行が十分期待できるレベルにある。	80点
当該項目については一般的な水準に達しており、業務の履行が十分できるレベルにある。	70点
当該項目については必ずしも一般的なレベルに達していないが、業務の履行は可能と判断されるレベルにある。	60点
当該項目だけで判断した場合、業務の適切な履行が困難であると判断されるレベルにある。	50点未満

イ. 価格評価

価格点については以下の評価方式により算出します。算出にあたっては、小数点以下第2位を四捨五入します。

$(\text{価格点}) = (\text{予定価格} - \text{当該応札者の入札価格}) / \text{予定価格} \times (20 \text{点})$

ただし、当該応札者の入札価格が「予定価格の75%」を下回っている場合には、入札価格にかかわらず、一律、「予定価格の75%」の入札価格であったとして当該応札者の価格点を算出します。すなわち、この場合、当該応札者の価格点は「5.0点」となります。

(4) 落札者の決定方法

以下のすべての要件を満たしたものを落札者とします。なお、落札となるべき総合評価点の者が2者以上あるときは、技術点が最も高いものを落札者とします。さらにこの場合、技術点が最も高いものが2者以上あるときは、くじ引きにより落札者を決定します。

- ア. 技術提案書の評点が入札説明書において明示する基準点を下回らない者であること
- イ. 当該応札者の入札価格が機構により作成された予定価格の制限の範囲内であること
- ウ. 当該応札者の総合評価点が最も高い者であること

12. 入札会手順等

(1) 入札会の手順

ア. 出席者等の確認

入札事務担当者が各出席者に入札会出席者名簿への署名を求めるとともに、技術審査結果通知書（写）及び委任状（代表権を有する者が出席の場合は不要）を受領し、内容を確認します。

なお、入札に参加できる者は原則として各社2名以内とし、これ以外の者は入札場所に立ち入ることはできません。また、必要に応じ、本人確認（運転免許証の提示等）を求めることがあります。

イ. 技術点の発表

入札事務担当者が、応札者各社の技術点を発表します。

ウ. 開札及び入札書の内容確認

入札事務担当者が、既に提出されている入札書の封印を確認し、併せて、各出席者にも確認を求めた上で、入札書を開封し、入札書の記載内容を確認します。

エ. 入札金額の発表

入札執行者が、各応札者の入札金額を読み上げます。

オ. 予定価格の開封及び入札書との照合

入札執行者が、予定価格を開封し最低入札金額と照合します。

カ. 落札者の発表

入札事務担当者が、予定価格を超えない応札者の価格点及び技術点との合計点を算出し、入札執行者がこれを読み上げた上で、「落札者」の発表を行います。

キ. 再入札

全ての入札価格が予定価格を超えた場合（以下「不落」という。）には、直ちに入札会に参加している応札者に再度の入札（以下「再入札」という。）を求めます。再入札を2回（つまり合計3回の入札）まで行っても落札者がないうときは、入札を打ち切ります。再入札を行う際は、入札会出席者の希望に基づき、会社への連絡を行うための休憩を挟む場合があります。

(2) 入札途中での辞退

「不落」の結果に伴い、入札会開催中に再入札を辞退する場合は、次のように入札書金額欄に「入札金額」の代わりに「辞退」と記載し、入札箱に投函して下さい。

金			辞			退			円
---	--	--	---	--	--	---	--	--	---

(3) 入札者の失格

入札会において、入札執行者による入札の執行を妨害した者、その他入札執行者の指示に従わなかった者は失格とします。

(4) 不落随意契約

3回の入札でも落札者が決まらない場合、契約金額が予定価格（税込）を超えない範囲内で契約交渉が成立した場合、契約を締結することとします。

1.3. 契約書作成及び締結

(1) 落札者から、入札金額内訳書（別添様式集「第1 入札に関する様式 4. 入札金額内訳書」参照）の提出をいただきます。

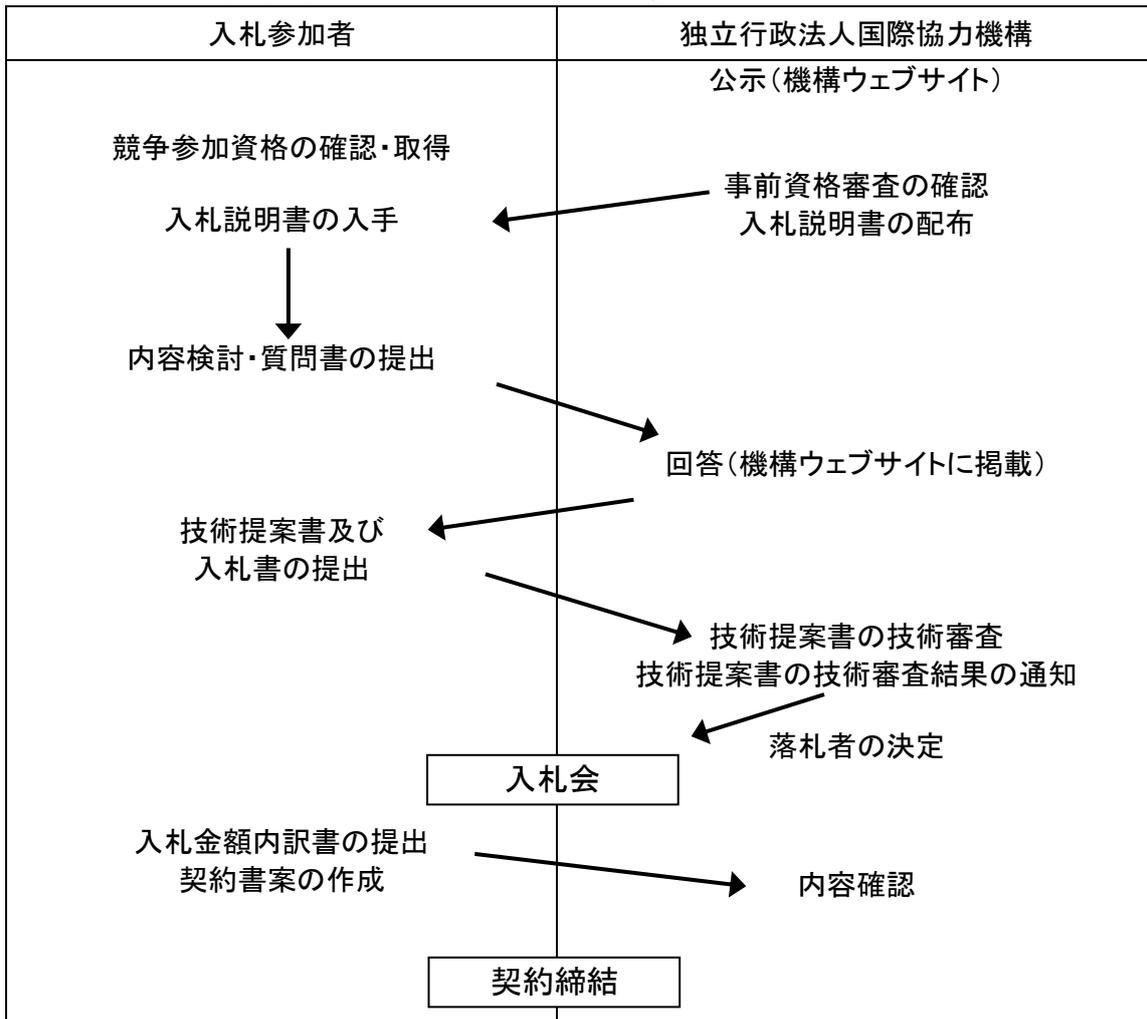
(2) 「第6 契約書（案）」に基づき、速やかに契約書を作成し、締結するものとします。契約保証金は免除します。

(3) 契約書附属書Ⅲ「契約金額内訳書」（「第6 契約書（案）」参照）については、入札金額内訳書等に基づき、両者協議・確認して設定します。

(4) 適用する約款

本業務にかかる契約は「成果品の完成を約しその対価を支払う」と規定する約款を適用し、すべての費用について消費税を課税することを想定しています。

図 総合評価落札方式による入札の手続きフロー（入札公示以降）



14. 情報の公開について

本企画競争に基づき締結される契約については「公共調達の適正化について」(平成18年8月25日付財計第2017号)等に基づき、機構ウェブサイト上に必要な情報(契約の相手方、契約金額等)を公表しています。また、一定の関係を有する法人との契約や関連公益法人等については、以下の通り追加情報を公表します。詳細はウェブサイト「公共調達の適正化に係る契約情報の公表について」を参照願います。

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>)

案件へのプロポーザルの提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

(1) 一定の関係を有する法人との契約に関する追加情報の公表

1) 公表の対象となる契約相手方取引先

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

- ア. 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること、又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
- イ. 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めてい

ること

2) 公表する情報

- ア. 対象となる再就職者の氏名、職名及び当機構における最終職名
- イ. 直近3か年の財務諸表における当機構との間の取引高
- ウ. 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合
- エ. 一者応札又は応募である場合はその旨

3) 情報の提供方法

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂きます。

(2) 関連公益法人等にかかる情報の公表

契約の相手方が「独立行政法人会計基準」第13章第6節に規定する関連公益法人等に該当する場合には、同基準第13章第7節の規定される情報が、機構の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されます。

15. 誓約事項

技術提案書の提出に際し、応札者は以下の事項について誓約していただきます。誓約は、技術提案書提出頭紙への記載により行っていただきます。

(1) 反社会的勢力の排除

以下のいずれにも該当せず、将来においても該当することがないこと。

- ア. 応札者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずるもの又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
- ウ. 反社会的勢力が応札者の経営に実質的に関与している。
- エ. 応札者又は応札者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- オ. 応札者又は応札者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- カ. 応札者又は応札者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- キ. 応札者又は応札者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- ク. その他、応札者が東京都暴力団排除条例（平成23年東京都条例第54号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

(2) 個人情報及び特定個人情報等の保護

法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等を適切に管理できる体制を整えていること。

本契約において、「個人番号関係事務」を委託することは想定していませんが、業務に関連して応募者が謝金等を支払う可能性も想定されるため、そのような場合において、法令に基づく適切な管理ができる体制にあるのかを確認させていただくことが趣旨です。

16. その他

- (1) 手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限ります。
- (2) 入札結果については、入札参加社名、入札金額等を国際協力機構ウェブサイトで公表します。
- (3) 機構が配布・貸与した資料・提供した情報（口頭によるものを含む）は、本件業務の技術提案書及び見積書、並びに入札書を作成するためのみに使用することとし、複写又は他の目的のために転用等使用しないで下さい。
- (4) 技術提案書等の作成、提出に係る費用については報酬を支払いません。
- (5) 技術提案書等は、本件業務の落札者を決定する目的以外に使用しません。ただし、行政機関から依頼があった場合は、法令で定められている範囲において、技術提案書等に記載された情報を提供することがあります。
- (6) 落札者の技術提案書等については返却いたしません。また、落札者以外の技術提案書については、提出者の要望があれば、(正)のみ返却しますので、入札会の日から2週間以内に上記4. 窓口までご連絡願います。要望がない場合には、機構が適切な方法で処分（シュレッダー処理等）いたします。なお、落札者以外の技術提案書等にて提案された計画、手法は無断で使用しません。
- (7) 技術提案書等に含まれる個人情報等については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）」に従い、適切に管理し取り扱います。
- (8) 技術審査で不合格となった者の事前提出済み入札書は、入札会後2週間以内を目処に、未開封の状態のまま郵送にて返却いたします。
- (9) 当機構では、入札説明書受理後、技術提案書を提出されなかった社に対し、辞退理由書の提出をお願いしています。より応募しやすい調達制度の構築の参考とさせていただきますので、以下のホームページを参照の上、よろしくご協力願います。

国際協力機構ホームページ (<http://www.jica.go.jp/index.html>)

→ 「調達情報」

→ 「お知らせ」

→ 「「プロポーザル提出辞退理由書」の導入について」

以上

第2 仕様書

仕様書は共通仕様書と特記仕様書から構成されます。

I. 共通仕様書

共通仕様書は、機構ウェブサイト「調達情報 > 調達ガイドライン・様式 > 様式 業務実施契約 2014年4月以降契約

(http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/index_since_201404.html)にある「附属書I (共通仕様書)」に示す通りとします。

II. 特記仕様書

1. 調査の背景

ベトナムにおいて、GDPに占める農林水産業の割合は、2015年ではGDPの17%、就業人口の44%を占める等、基幹産業の一つである。農業生産性は着実に伸び、それにより農業収益性も増大している。例えばコメの単収はこの30年で2倍以上に増加、現在では世界有数の輸出国となった。他にも、コーヒー、カシューナッツ、ゴム、コショウ、お茶等の商品作物の生産も増大しており、国際市場の需給バランスに影響を及ぼす程になっている。また、拡大する国内の消費市場を背景に、生産面だけではなく流通から加工分野まで農林水産セクターに国内外の投資と共に、多くの企業が参入している。

ベトナム政府は、農業の付加価値を高め、国際競争力を向上させる意向を有しており、2013年に「付加価値向上・持続的開発のための農業セクター改革」(2013年6月10日付、899/QD-TTg)が首相決定され、2014年には改めて「農業の付加価値向上と新農村建設を関連付けた持続可能な開発に向けて構造再編に取り組む」旨首相の所信として表明される等農業開発の重要性が示されている。

2014年3月に日越首脳間において、我が国としてもその取組を支援することが確認され、同年6月には「第一回日越農業協力対話ハイレベル会合」が開催された。その後、日越両国政府間で合意された日越農業協力中長期ビジョン(2015-2019)では、生産、加工・製造、流通、消費に至るフードバリューチェーン(以下「FVC」)の構築支援と生産性・付加価値向上のための投資及び開発が重点課題とされ、そのモデル地域として、ゲアン省(生産性・付加価値向上)、ラムドン省(食品加工・商品開発)、ハノイ及びホーチミン等大都市近郊(物流改善、コールドチェーン)等が盛り込まれた。また、2018年4月に同ビジョンが改定され、中部高原地域及びメコンデルタ(国内最大の農業地帯における塩水遡上など気候変動への配慮)、カントー大学等(FVCの各段階でのキャパシティビルディングの強化)が追加された。これまでの官民連携した取組により、ハノイ近郊北部地域及びゲアン省では契約農業が進み、ラムドン省ではハイテク農業等の試行的導入が図られる等、日系企業をはじめとする民間企業の農業分野への進出が増加しており、一定の成果が出つつある。一方で、今後農業発展の担い手として益々重要なアクターとなる民間企業がベトナムで事業を展開するにあたり、政

府のコミットメント、煩雑な土地・投資ライセンス、インフラ・設備の未整備、適切な資機材の調達、技術を有する人材の確保等、多くの課題に直面している。以上を踏まえ、日越農業協力中長期ビジョン（2015-2019）の改定を視野に入れつつ、今後のJICAによる日本企業（特に中小企業、農業法人、中小企業団体、事業協同組合等。以下「中小企業等」）海外展開支援及び農業分野における協力の方向性を検討するために、ベトナムにおける農業分野の日本企業等（特に中小企業等）支援及び進出済企業の事業展開上の課題の整理、情報収集を行うものである。

2. 調査の目的

本調査では、日越農業協力中長期ビジョン（2015-2019）の改定を視野に入れつつ、ベトナムにおける農業分野の日本企業（特に中小企業等）進出支援及び進出済企業の事業展開上の課題の整理を行い、今後のJICAによる日本企業（特に中小企業等）海外展開支援及び農業分野における協力の方向性を検討する上での基礎情報を収集することを目的とする。

3. 調査の対象地域

ベトナム国全土（特に、ハノイ市及びホーチミン市等大都市近郊、ゲアン省、ラムドン省、カントー市周辺メコンデルタ地域、ソンラ省、中部高原等）

4. 調査の範囲

本業務は、「2. 調査の目的」を達成するため、「5. 実施方針及び留意事項」を踏まえつつ、「6. 調査の内容」に示す事項の活動を行うと共に、「8. 成果品等」に示す報告書を作成するもの。

5. 実施方針及び留意事項

- （1）本調査は、日越農業協力中長期ビジョン（2015-2019）で記載されている分野のうち、林業分野を除く全分野を対象とする。
- （2）既存の資料・関連調査等を最大限活用するとともに、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）等国際経済統合のベトナム農業への影響、市場環境、関連法制度、インフラ整備状況、農業分野への投資、日系企業の農業関連分野での進出等、最新の動向を踏まえて検討を行う。
- （3）ベトナムにおける農産品のFVCへの進出に関心のある日本企業、進出済の日系企業へのヒアリング等を行い、進出及び事業の阻害要因を特定するとともにボトルネック解消に向けた方策を調査する。
- （4）日越農業協力中長期ビジョン（2015-2019）をもとに日越の官民が協働した取組について、関係者からのヒアリング等を踏まえてレビューを行い、FVCの構築支援と生産性・付加価値向上にかかる活動、活動を通じたモデル地域または周辺地域へのインパクトと影響、活動の成果を整理し、活動の課題を抽出する。それら課題を踏まえて、今後の取組として、選定されたモデル地域での活動を、ベトナム政府の最新の政策等を踏まえて深化することを軸としつつ、課題解決のために適切と考えられる場合は、他地域への展開の可能性等も検討する。右可能性等検討に当たってはJICA農村開発部が2019年1月から2020年5月までの予定で実施中の「ASEAN-JICA フードバリューチェーン形成に係る情報収集・確認調査」にて調査中のASEANによるFVC施策を参考とすること。他地域の候補地については、プロポーザルにて理由とともに提案

するとともに、調査の中で JICA と合意の上調査を進める。

(5) 農業農村開発省 (MARD) には日本の農業関連企業・投資家向けにアグリビジネスジャパンデスク (ABJD) が設置されている。本調査の成果を踏まえて、同デスクにて、日本の農業関連企業・投資家向けにベトナムの農業の現状を理解できる発信材料等を成果品に含める。

(6) 2019 年にベトナムの 10 か年の社会経済開発戦略 (SEDS (2021-2030))、5 か年の社会経済開発計画 (SEDP (2021-2025))、各地方省における SEDP (2021-2025) の策定が本格化することから、それら動向を調査し、整合を取りつつ、ベトナムにおける農業分野の日本企業 (特に中小企業等) 進出支援及び進出済企業の事業展開上の課題の整理を行い、今後 (2020 年以降 6 年間で想定) の JICA による日本企業 (特に中小企業等) 海外展開支援及び農業分野における協力の方向性について、現在のベトナム政府の政策等を踏まえた官、民、学の役割を考慮の上、提言を行う。協力の方向性には、目標、成果、行動等を含むこととする。なお、本邦中小企業等がベトナムから多数の農業技能実習生を受け入れており、実習生の一部は帰国後に農業や FVC 関連事業に従事し、中には本邦実習先との連携により新たな事業を展開している者もあり、技能実習生は本邦中小企業等がベトナムに進出する際の重要なリソースとなり得る可能性がある。本邦中小企業等のベトナム進出の観点から農業技能実習生の本邦受入及び帰国実習生の活用について検討し、結果を上記提言に反映すること。

(7) JICA ベトナム事務所と相談の上、MARD や関連する中央省庁、地方省人民委員会や関連する地方政府当局へ調査を検討・実施し、その調査結果を日越関係者へ報告すること。なお、必要に応じ JICA ベトナム事務所からベトナム政府関係機関等に対し調査の協力依頼をすることも可能である。

6. 調査の内容

- (1) 既存情報の収集・整理を行い、調査実施に係る基本方針、方法、項目、内容、実施体制及びスケジュール等を検討し、インセプション・レポート (案) にまとめる。インセプション・レポート (案) は、JICA ベトナム事務所のコメントを踏まえ修正し、承認を得て完成させること。
- (2) 関連情報の収集・レビュー・分析
 - 1) ベトナムにおける FVC に関わる各種データ
生産体制、地域特産、流通・販売形態、加工技術、消費地需要、貿易状況等を整理し、ベトナムの FVC 構築に向けた現在の課題を抽出する。
 - 2) ベトナムにおける農業組合、農業関連個人/企業の現状、中でも有力な農業組合、農業関連個人/企業にかかる情報 (体制、機能、役割、連絡先、事業、財務状況 (公開情報による)、課題) を行う。同調査結果は、ABJD における日本の農業関連企業・投資家向けの発信材料等としての活用も視野に入れることから、その内容及び項目ならびに書式等は、MARD、MARD に派遣されている JICA 専門家、日系企業等の声を反映の上、JICA 事務所と協議の上決定する。
 - 3) ベトナムにおける農業分野 (農産品 FVC を含む) への進出に関心のある日本企業 (特に中小企業等) 及び進出済企業にかかる情報収集をし、事業進出までの経緯、事業展開上の課題を抽出・分析し、支援ニーズ (情報、技術、資

- 金、人材等)を調査する。調査結果は、生産、加工・製造、流通、消費の各段階及び関連産業毎に整理してまとめる。
- 4) ベトナムからの農業技能実習生の本邦での受け入れ体制と実態、実習生の帰国後の進路、農業分野での活動状況等を調査し、結果を取りまとめ、本邦中小企業等との連携に向けた可能性と課題を整理する。
 - 5) ベトナムにおける農業分野(農産品 FVC を含む)への投資関連情報
ベトナムにおける農業分野(農産品 FVC を含む)への進出を検討している日本企業(特に中小企業等)に取って有益となり得る農業及び投資の関連法規制にかかる情報、農業ビジネスを展開する主な外国企業の動向を情報収集・整理する。農業分野(農産品 FVC を含む)への投資環境(投資にかかる規制、農地利用にかかる制度、安全作物の奨励制度等)を整理し、農業分野(農産品 FVC を含む)への投資動向を分析する。
 - 6) ベトナム政府の農業及び関連分野にかかる政策・戦略・制度
MARD 及び各地方省の人民委員会が積極的に誘致する農業分野(農産品 FVC を含む)の業種(技術・製品)や、該当する外国直接投資(FDI)に対するの優遇措置等を整理する。加えて、日本企業のパートナーとなりうるベトナム企業に対する政府や民間による農業に関わる融資・保険・補助金制度や優遇措置についても整理する。
 - 7) 農業分野(農産品 FVC を含む)の日本を含む各国の ODA 実施状況
ベトナムの農業分野(農産品 FVC を含む)においてこれまで各ドナーが実施してきた協力内容とその成果、活動状況にかかる情報を収集・整理する。
 - 8) 農業分野のインフラ整備状況
ベトナムの FVC に関わるインフラの整備状況(灌漑施設、上下水道、道路、港湾、通信網、公設市場や倉庫等流通施設)を整理する。農業分野(農産品 FVC を含む)の日本企業(特に中小企業等)に取って進出上の課題となるインフラ整備状況及び、有利となる地域を分析する。
 - 9) CPTPP による農業分野(農産品 FVC を含む)への影響と今後の見通し
CPTPP により予想される農業分野(農産品 FVC を含む)への影響について情報を取りまとめる。また、国内・国際市場の需要トレンドを踏まえベトナム農産物の国際市場への輸出にあたっての強み・弱みを主要農産物毎に分析し、国内・国際市場で強みを有するベトナムの農産物に関する情報を収集し、シェア及び輸出拡大に向けて取るべき施策等を分析する。
- (3) 日越農業協力対話における日越農業協力中長期ビジョン(2015-2019)を通じ、FVC 構築に向けて官民が取り組んだ成果、成果の持続性、インパクトと課題の分析

ベトナムにおける農業分野(農産品 FVC を含む)の日本企業(特に中小企業等)進出支援及び進出済企業の事業展開上の課題を抽出・分析する。特に、JICA の民間連携事業・中小企業・SDGs ビジネス支援事業の各種スキーム(基礎調査、案件化調査、普及・実証・ビジネス化調査、協力準備調査、民間連携ボランティア等)の実施済及び実施中案件について、ベトナム側実施機関・案件委託先・JICA 等関係者へのヒアリング等を通じてレビューを行う。具体的には、取組の成果、成果の持続性、インパクトと課題の分析を行うこととし、特にモデル地域は重点的にレビュー

する。成果の持続性、インパクトに関しては、中央及び地方政府の政策への反映、政策の実施状況等に加えて、関連する指標等を調査、分析し、定性的な分析に加えて可能な限り定量的にも示すこと。

(4) プロGRESS・レポートの作成

上記(1)～(3)の業務に係る実施結果及び総括をPROGRESS・レポートにまとめ、JICA ベトナム事務所に提出の上、コメントを得る。コメントに基づき、同レポートを修正すること。

(5) 課題解決に向けた今後の JICA の協力の方向性にかかる提言

日越農業協力中長期ビジョン(2015-2019)の改定を視野に入れつつ、(2)及び(3)にて得られたベトナム農業の最新状況や同中長期ビジョンにおける取組(特にモデル地域における取組)のレビュー結果を踏まえ、以下1)に記載の方向性を軸に、JICA のモデル地域に対する今後の協力の方向性を検討する。また、以下2)に記載のとおり、モデル地域外への展開が妥当な場合、展開先の地域と理由をプロポーザルで提案すること。プロポーザルでは、農業のベトナム国内動向、国際動向や JICA のこれまでの取組をレビューした上で、各モデル地域での今後の方向性に関し現段階で考えられる仮説を理由・根拠とともに示すこと。なお、プロポーザルにおいては、以下1)及び2)に記載の方向性に縛られるものではない。

1) モデル地域

a. ハノイ市及びホーチミン市等大都市近郊

拡大する国内外の市場へのアクセス優位性、各地方都市を繋ぐ農作物の生産と消費・情報発信地としての可能性、CPTPP による生産への影響、農業分野(農産品 FVC を含む)の企業進出動向等を調査分析し、これまでの取組で不十分な成果や活動を踏まえて、さらなる農作物の高付加価値化と安全作物の振興・普及に必要な施策を含む方向性を検討する。「北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」「農民組織機能強化プロジェクト」「農業・水産食品の安全確保のための検査・農業食品品質コンサルティングセンター能力強化計画」等、JICA による生産・出荷体制強化への取組や効果を、今後持続的に発現できる協力方向性を提案する。

b. ゲアン省

技術協力プロジェクト「ゲアン省農業振興開発計画策定支援プロジェクト」にて、契約農業に基づいた生産体制の構築と強化を支援してきているが、これまでの取組や成果、日系企業の進出動向、FDI 動向、課題等を踏まえて、今後の方向性を提案する。なお、同プロジェクトにて、市場ニーズの収集と発信、農畜産物マーケティング活動、マッチング推進などの機能を有する AMPF (Agriculture Marketing Platform) がゲアン省農業農村開発局(DARD)傘下に立ち上がったが、その役割と機能が持続的に発揮されるための自立体制を考慮した提案を行う。

c. ラムドン省

JICA が策定を支援したラムドン省の農業振興 8 戦略(農業団地設立構想、ポストハーベスト機能の強化、花卉集荷センター設立構想、野菜・花卉生産

体制高度化、ブランディング活動の強化、アグリツーリズムの振興、有能農業人材の育成、R&D 機能の強化) の実施にあたり、関係者へのヒアリング等を踏まえて、主な課題(ブランド価値に見合う農産物の安全性・信頼性確保、地価の高騰、気候変動の影響、観光開発による環境影響等) を抽出し、課題解決に向けた今後の方向性や JICA の更なる協力可能性・妥当性を検討、提案する。

d. カントー市周辺を含むメコンデルタ地域

同地域はベトナム最大の食糧供給基地だが、気候変動の影響を大きく受け、日本企業進出も低水準に留まっている。同地域のポテンシャルに注目し、既に強みのある農水産業の更なる発展を後押しするための方向性や JICA の協力可能性・妥当性を検討する。提案にあたり、同地域で実施中の JICA 事業(カントー大学強化事業、ベンチェ省水管理事業、高効率燃料電池と再生バイオガスを融合させた地域内エネルギー循環システムの構築プロジェクト等) の成果を活用・連携する方策を検討すること。加えて、同地域農産物の国内・国際市場における更なる競争力強化にあたり、各省・市の特性や役割分担案を整理し、国内消費地や国際市場へのコネクティビティの観点からの改善提案を期待する。

2) モデル地域外の他の地方省

ベトナム農業の最新状況や日越農業協力中長期ビジョンにおけるモデル地域での取組を評価した結果、同モデル地域での継続的な取組・協力には課題が残る、あるいはモデル地域でのこれまでの取組を他地域でも実施・展開することが妥当と考えられる場合は、北部(ソトラ省等)、中部高原(ダクラック省等)、メコンデルタ(ベンチェ省等)あるいはその他から潜在性のある対象地域を適切な理由を以て別途選定し、現状、SWOT 分析、課題等を踏まえた望ましい今後の方向性を検討する。対象地域の選定にあたっては、各省の共産党・人民委員会の指導力、農業開発政策、DARD をはじめとする関係機関の行政及び政策遂行能力等を考慮の上、日本企業(特に中小企業等)の参入状況・将来的な参画可能性・収益性等を総合的に判断すること。

(6) インテリム・レポートの作成

上記(1)～(5)の業務に係る実施の中間報告をインテリム・レポートにまとめ、JICA ベトナム事務所に提出の上、コメントを得る。コメントに基づき、同レポートを修正すること。

(7) これまでの成果を踏まえ、日本企業(特に中小企業等)進出支援及び進出済企業の事業展開上の課題を踏まえた、今後の JICA による日本企業(特に中小企業等)海外展開支援及び農業分野(農産品 FVC を含む)における協力の方向性にかかる JICA への提言を行う。

(8) ドラフト・ファイナル・レポートの作成

上記（１）～（７）の業務に係る実施結果及び総括をドラフト・ファイナル・レポートにまとめ、JICA ベトナム事務所に提出の上、コメントを得る。コメントに基づき、同レポートを修正すること。作成したドラフト・ファイナル・レポートをMARDに説明し、コメントを得る。コメントに基づき、同レポートを修正すること。

（９）外部への成果発信

本調査での結果・提言をパンフレット等の広報資料、オンライン掲載、以下（１０）に記載のセミナー開催等を活用して対外に発信を行う。パンフレットについてはA4用紙6ページ程度の簡易なものを想定し、和文（200部）、英文（100部）、越文（200部）とする。

（１０）成果発表セミナーの開催

本調査の成果をMARD、本調査のベトナム側関係機関及び組合ならびに企業等、さらにはベトナムにおける農業分野の日本企業（特に中小企業等）関係者に広く説明し、理解を深めるためのセミナーを開催する。セミナーは、北部（ハノイ）、南部（ホーチミン）にて開催し、それぞれ概ね100名程度の参加を得ることを想定する。セミナーの開催時期、方法等の詳細については、調査で協力を得たベトナム側関係者主要機関及びJICAベトナム事務所と協議の上決定する。なお、本プロポーザルでは2か所のセミナー開催費（会場借上・設営、通訳代含む）として100万円を定額計上すること。

（１１）ファイナル・レポートの提出

ドラフト・ファイナル・レポートへのコメントや、成果発表セミナーの結果を踏まえ、ファイナル・レポートを作成し、JICAベトナム事務所に提出する。

7. 便宜供与

関係機関との面談に係る設定については、必要に応じ当該国のJICAベトナム事務所の支援を受けられるものとする。

8. 成果品等

8.1 調査報告書

本調査では、以下の調査報告書を作成し、ファイナル・レポートを最終成果品とする。

- （１） インセプション・レポート（IC/R）
 - a. 記載事項：調査方針、調査手法、実施体制、作業工程、要員計画等
 - b. 提出時期：2019年6月上旬
 - c. 部数：和文5部、英文5部、越文10部
- （２） プロGRESS・レポート（PR/R）
 - a. 記載事項：「6. 調査の内容（４）」に記載の事項
 - b. 提出時期：2019年8月下旬
 - c. 部数：和文5部、英文5部、越文10部
- （３） インテリム・レポート（IT/R）
 - a. 記載事項：「6. 調査の内容（６）」に記載の事項
 - b. 提出時期：2019年11月上旬
 - c. 部数：和文5部、英文5部、越文10部

- d.
- (4) ドラフト・ファイナル・レポート (DF/R)
 - a. 記載事項：「6. 調査の内容 (8)」に記載の事項
 - b. 提出時期：2020年1月中旬
 - c. 部数：和文5部、英文5部、越文10部
- (5) ファイナル・レポート (F/R)
 - a. 記載事項：調査結果全体
 - b. 提出時期：2020年3月上旬
 - c. 部数：和文5部、英文10部、越文20部
 - d. CD/DVD -R：2枚

8.2 その他提出物

- (1) 関係機関等との協議録
 - a. 記載事項：関係機関等との協議の際の協議・決定事項
 - b. 提出時期：都度
 - c. 部数：1部
- (2) 収集資料

本調査を通じて収集した資料及びデータは、調査の過程で翻訳したものを含め、項目ごとに整理して、調査終了後にJICAに提出する。

 - a. 記載事項：収集した資料、データ及びそのリスト
 - b. 提出時期：調査終了時
 - c. 部数：1部

8.3 報告書作成についての留意事項

- (1) 各調査報告書の作成にあたっては、図表リスト、略語リスト、参考文献等各種リストを記載し、転載するものは必ず出典を明記する。
- (2) 各調査報告書で価格・費用等を現地通貨で記載する際には、表紙の裏面に、その時点における円貨との交換レートを記載する。
- (3) 各調査報告書の作成にあたっては、その内容を的確かつ簡潔に記述し、案の段階で事前にJICAに提出し、承諾を得ること。
- (4) 各調査報告書の関係機関への説明・協議の際には、先方の意見・要望を聴取し、協議録に残すものとする。
- (5) インセプション・レポート以外のレポートには、巻頭に要約を加えること。
- (6) ファイナル・レポートの作成にあたっては、華美な装丁等は避け、常識の範囲内で極力コストダウンを図ること。

8.4 報告書の印刷仕様／電子化仕様

ファイナル・レポート以外の報告書は簡易製本により作成し、報告書等の印刷、電子化 (CD-R 等) の仕様については、「コンサルタント等契約における報告書の印刷・電子媒体に関するガイドライン」の通りとする。

報告書全体を通じて、固有名詞、用語、単位、記号等の統一性と整合性を確保すること。

また、英文報告書の作成にあたっては、その表現振りに十分注意を払い、国際的に通用する英文報告書を作成するとともに、必ず当該分野の経験・知識とともに豊富なネイティブスピーカーの校閲を受けること。

9. 調査の工程

本調査は2019年5月下旬開始、2020年3月下旬完了を目途とする。本調査では、年末年始及びベトナム旧正月（テト休暇）を考慮し、以下のような工程を想定しているが、より効率的に効果的な成果が得られる作業工程があればプロポーザルで提案するものとする。

年度	2019年度										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国内作業										●テト	
現地作業											
レポート		①			②		③		④ ⑤		⑥
	① インセプション・レポート(IC/R)										
	② プロGRESS・レポート(PR/R)										
	③ インテリム・レポート(IT/R)										
	④ ドラフト・ファイナル・レポート(DF/R)										
	⑤ 成果発表セミナー										
	⑥ ファイナル・レポート(F/R)										

10. 現地再委託

本調査の実施において、既存情報の収集・整理等について、部分的に現地再委託することにより業務の効化及び質の向上が見込まれる場合、当該業務について経験・知見を豊富に有する機関・コンサルタント・NGO等に現地再委託することを認める場合がある。現地再委託にて実施することが望ましいと考える業務がある場合、理由を付してプロポーザルにて提案すること。

調査内容に記載の以下については現地再委託を可能とする。以下、(1)～(3)については、プロポーザルではまとめて500万円を定額計上すること。

- (1) ベトナムにおける農業組合、農業関連法人個人/企業にかかる調査
- (2) 農業技能実習生制度の日本での受け入れ、実習生の帰国後の実態等にかかるベトナム国内における派遣元等への調査
- (3) 農業に関わる融資・保険・補助金制度や優遇措置調査
- (4) 成果発信のための広報資料作成

現地再委託にあたっては、「コンサルタント等契約における現地再委託契約ガイドライン(2017年4月)」に則り選定及び契約を行うこととし、委託業者の業務遂行に関しては、現地において適切な監督、指示を行う。現地再委託を行う場合には、プロポーザルで現地再委託対象業務の実施方法と契約手続き(見積書による価格比較、入札等)、価格競争に参加を想定している現地業者の候補者名並びに現地再委託業務の監督・成果品の検査の方法等、より具体的な提案を可能な範囲で行うこと。

11. 調査用資機材

本調査実施のために、現地調査に際して本邦から携行するコンサルタント所有の資機材のうち、コンサルタントが本邦に持ち帰らないものであって、かつ輸入許可の取得を要するものについては、コンサルタントが必要な手続きを行うものとする。

12. 対象国の便宜供与

本調査は JICA の責任において実施するものであることから、ベトナム政府及び調査対象国からの便宜供与は想定していないため、本調査実施にあたっては、コンサルタントは通常の調査業務と同様に独自で調査を遂行することが求められる。JICA からの便宜供与を必要とする場合には、予め JICA ベトナム事務所に連絡・協議すること。

13. その他留意事項

13.1 安全管理

現地作業期間中は安全管理に十分留意してください。現地の治安状況については、JICA ベトナム事務所乃至在ベトナム日本大使館などにおいて十分な情報収集を行うとともに、現地作業の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行うこととします。また、同事務所と常時連絡が取れる体制とし、特に地方にて活動を行う場合は、現地の治安状況、移動手段等について同事務所と緊密に連絡を取る様に留意することとします。また現地作業中における安全管理体制をプロポーザルに記載してください。

現地業務に先立ち外務省「たびレジ」に渡航予定の業務従事者全員を登録してください。

13.2 個人情報・企業情報の取扱い

「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」(平成 15 年法律第 59 号)を遵守し、本調査で収集した個人情報・企業情報を取り扱う際には、独立行政法人国際協力機構「個人情報の保護に関する実施細則」に基づき適正な収集、利用及び管理を行こととします。

13.3 不正腐敗対策

本業務の実施にあたっては、「JICA 不正腐敗防止ガイダンス (2014 年 10 月)」(<http://www2.jica.go.jp/ja/odainfo/pdf/guidance.pdf>) の趣旨を念頭に業務を行うこととします。なお、疑義事項が生じた場合は、不正腐敗情報相談窓口または JICA 担当者に速やかに相談してください。

13.4 適用する約款

本業務にかかる契約は「成果品の完成を約しその対価を支払う」と規定する約款を適用し、すべての費用について消費税を課税することを想定しています。

(別紙)

報告書目次案

注) 本目次案は、公示段階での案であるため、最終的な報告書の目次は、現地調査の結果及び JICA との協議に基づき、最終確定するものとする。

第1章 序論

- 1-1 調査の背景
- 1-2 調査の目的
- 1-3 調査対象地
- 1-4 調査の工程
- 1-5 関係機関

第2章 ベトナムの農業、農産品フードバリューチェーン

- 2-1 ベトナムの農業
- 2-2 ベトナムの農業フードバリューチェーンの概要及び特徴
- 2-3 農業組合、農業関連個人/企業
- 2-4 日系企業のベトナムにおける農業分野・農産品フードバリューチェーンへの進出及び事業展開上の課題
 - (1) 現状
 - (2) 課題
 - (3) 支援ニーズ(情報、技術、資金、人材等)
- 2-5 ベトナムからの農業技能実習生
 - (1) 本邦での受け入れ体制と実態
 - (2) 技能実習生の帰国後の進路、農業分野での活動状況
 - (3) 本邦中小企業等との連携に向けた可能性と課題
- 2-6 農業分野・農産品フードバリューチェーンの関連法制度、投資奨励策等
 - (1) 農業及び投資の関連法規制(土地、生産、流通、加工、関連産業等)
 - (2) 投資環境(投資にかかる規制、投資奨励策、農地利用にかかる制度、安全作物の奨励制度等)
 - (3) 農業分野・農産品フードバリューチェーンへの投資動向
- 2-7 農業組合、農業関連個人/企業に対する融資・保険・補助金制度や優遇措置
 - (1) 農業分野への融資・保険・補助金制度の現状
 - (2) 課題
- 2-8 農業分野・農産品フードバリューチェーンへの各国の取組
 - (1) 各国の ODA 実施状況
 - (2) 農業ビジネスにおける主な外国企業の動向
 - (3) 各国の官民連携の取組
- 2-9 農業分野のインフラ整備状況
 - (1) 主要関連インフラの整備状況
 - (2) 物流事情
 - (3) 今後の見通し
- 2-10 CPTPP による農業分野・農産品フードバリューチェーンへの影響と今後の見通し

- (1) 予想される影響
- (2) 国内・国際市場の需要トレンド
- (3) 農産物の国際市場への輸出にあたっての強み・弱み
- (4) 国内・国際市場で強みを有するベトナムの農産物
- (5) シェア及び輸出拡大に向けて取るべき施策

第3章 日越農業協力対話における日越農業協力中長期ビジョン（2015-2019）の官民が取組んだ成果、成果の持続性、インパクトと課題

- (1) レビューと成果
- (2) 成果の持続性
- (3) インパクト
- (4) 課題

第4章 課題解決に向けた今後の JICA の協力の方向性にかかる提言

- (1) モデル地域に対する今後の協力の方向性
 - 1) ハノイ市及びホーチミン市等大都市近郊
 - 2) ゲアン省
 - 3) ラムドン省
 - 4) カントー市周辺を含むメコンデルタ地域
- (2) モデル地域外への展開

第5章 今後の JICA による農業分野・農産品フードバリューチェーン分野における日本企業（特に中小企業等）海外展開支援及び協力の方向性

第6章 成果発信の取組と結果

以上

第3 技術提案書作成要領

技術提案書を作成するにあたっては、仕様書に明記されている内容等を技術提案書に十分に反映させることが必要となりますので、その内容をよく確認して下さい。

1. 技術提案書の構成

技術提案書の構成と頁数目安は次表のとおりです。

記載事項	頁数目安	
	1社	JV
頭紙		
表紙		
1 コンサルタント等の法人としての経験、能力		
(1) 類似業務の経験	6	注
(2) 当該業務実施上のバックアップ体制（本邦／現地）	1～2	1～2
2 業務の実施方針等		
(1) 課題に関する現状認識	}	15
(2) 業務実施の基本方針		
(3) 作業計画		1
(4) 要員計画		3
(5) その他		1
3 業務従事予定者の経験、能力等		
(1) 評価対象業務従事者の経歴		5／人

注) 共同企業体を結成する場合、「類似業務の経験」は、各社（共同企業体代表者及び構成員）にてそれぞれ記載するため、「6枚×社数（共同企業体代表者及び構成員の社数）」を頁数目安として下さい。

2. 技術提案書作成に係る要件・留意事項

以下、本業務に係る技術提案書作成に際して、留意頂くべき要件・留意事項について、以下のとおり整理します。

(1) 業務の工程

「第2 仕様書」を参照し、求められている業務の工程を確認してください。

(2) 業務量の目途及び業務従事者

機構が想定する業務量の目途は次のとおりです。以下の数字は、機構が想定する目途ですので、応札者は、「第2 仕様書」に示した業務に応じた業務量を算定

してください。

1) 作業人月（目途）：

（全体）約 19.23 人月

（内訳）現地作業：約 14.23 人月（現地渡航回数：延べ 4 回）

国内作業：約 5.0 人月

※現地業務期間や渡航回数については、提案する作業計画に基づき、応札者が自由に提案することができますが、それらに係る経費を含む入札価格が予定価格を超える場合は落札者とならないので、ご留意ください。

2) 業務従事者の構成（案）

業務従事者の構成は、以下の分野を担当する業務従事者を想定していますが、これは機構が業務量を想定する際に用いた仮定ですので、要員計画策定に当たっては、業務内容及び業務工程を考慮の上、適切に業務従事者を構成願います。なお、業務管理グループは想定していません。

- ① 業務主任者／農業開発・政策（2 号）
- ② フードバリューチェーン開発（3 号）
- ③ 農業市場調査（3 号）
- ④ 農業投資・事業環境（3 号）
- ⑤ 農業組合・農業法人/経営分析（3 号）

なお、提案いただく業務従事者のうち、①、②の業務従事者を評価します。

(3) 評価に際しての類似業務／対象国／語学力

技術提案書の評価に際しては、以下の項目を類似案件、対象国又は近隣地域、語学力として評価します。

1) 社としての類似業務経験

農業農村開発・企業分析に係る各種業務

2) 評価対象者（業務主任者／農業開発・政策）

- ① 類似業務 農業政策にかかる各種業務
- ② 対象国／地域 ベトナム国／東南アジア
- ③ 語学力 英語

3) 評価対象者（フードバリューチェーン開発）

- ① 類似業務 バリューチェーン構築にかかる各種業務
- ② 対象国／地域 ベトナム国／東南アジア
- ③ 語学力 英語

(4) 自社と雇用関係のない業務従事者の配置

自社の経営者または自社と雇用関係にある技術者を「専任の技術者」と称します。また、専任の技術者以外の業務従事者を「補強」と称します。

補強については、全業務従事者の 4 分の 3 までを目途として、配置を認めます。ただし、受注者が共同企業体である場合、共同企業体の代表者及び構成員ごとの業務従事者数の 2 分の 1 までを目途とします。

なお、業務主任者については、自社（共同企業体の場合は代表者）の「専任の技術者」を指名してください。

なお、評価対象業務従事予定者を補強により配置する場合は、当該業務従事予

定者の所属する社もしくは団体から同意書（自営の場合は本人の同意書）（様式はありません）を取り付け、技術提案書（正及び写）に添付してください。同意書は写しでも構いません。

（5）外国籍人材の活用

途上国における類似業務の経験・実績を持つ外国籍人材の活用が可能です。ただし、委託される業務は我が国ODAの実施業務であることに鑑み、外国籍人材の活用上限は、当該業務全体の業務従事人月の2分の1及び業務従事者数の2分の1を目途としてください。

なお、業務主任者を含む評価対象業務従事者に外国籍人材を活用する場合で、当該業務従事者が日本語を母国語としない場合は、日本語のコミュニケーション能力について、記述してください。日本語の資格を取得している場合、証書の写しを添付してください。

（6）閲覧資料

1）機構が当該国にて過去に実施した以下の調査の報告書が、ウェブサイトで見ることが可能です。

『ベトナム国ラムドン省農林水産業及び関連産業集積化に係る情報収集・確認調査ファイナルレポート』

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12247763.pdf

『ベトナム国ラムドン省主要作物およびアグリツーリズムのブランディング・プロモーション戦略策定に係る情報収集・確認調査』

<http://libopac.jica.go.jp/images/report/12286936.pdf>

『ベトナム国先進的な施設園芸・農業人材育成モデル普及・実証事業業務完了報告書』

<http://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000038755.html>

『ベトナム国切り花流通における鮮度・品質維持技術のトータル・コーディネーション事業案件化調査業務完了報告書』

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12306452.pdf

『ベトナム国メコンデルタ沿岸地域における持続的農業農村開発のための気候変動適応対策プロジェクト最終報告書（要約版）』

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12114567.pdf

『ベトナム国メコンデルタ沿岸地域における持続的農業農村開発のための気候変動適応対策プロジェクト最終報告書』

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12114575_01.pdf

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12114575_02.pdf

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12114575_03.pdf

『ベトナム国農民組織機能強化プロジェクト（フェーズ2）終了時評価調査報告書』

http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12270062.pdf

『ベトナム国 機能性野菜栽培・販売に関する調査（中小企業連携促進）業務完了報告書』

<http://libopac.jica.go.jp/images/report/12263919.pdf>

『ベトナム国 ゲアン省におけるニンニクを中心とした農産物のバリューチェーン構築に係る案件化調査業務完了報告書』

<http://libopac.jica.go.jp/images/report/12318697.pdf>

『ベトナム国 ラムドン省におけるポストハーベスト処理改善に向けた日本式高度選果・マーケティングの普及・実証事業業務完了報告書』

<http://libopac.jica.go.jp/images/report/12286811.pdf>

2) 以下の資料については、本入札説明書と共に配布しました。

『ベトナム国 農業金融支援事業にかかる情報収集・確認調査ファイナルレポート』
(抜粋)

3) 以下の関連資料が、ウェブサイトで閲覧可能です。

『日越農業協力対話について』

http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokkyo/attach/pdf/0511haifu_gfvc-9.pdf

『ベトナム農業関連ビジネスパートナー発掘調査』

https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2017/2ed0c5950f5e3966/rp-vnagbp-201701.pdf

『ベトナムの野菜の生産、流通および輸出の現状』

<https://www.alic.go.jp/content/000143865.pdf>

3. 技術提案書作成上の留意点

具体的な記載事項や留意点について以下に説明します。

3. 1 コンサルタント等の法人としての経験、能力

業務を実施するにあたっては、後述するように、当該業務に直接的に従事する各団員の経験や能力等のもとより、コンサルタント等の法人としての業務経験、法人としての業務実施体制等も業務を円滑に実施するための重要な要件ですので、本項目ではこれらを総合的に記述して下さい。

(1) 類似業務の経験

国内業務、海外業務を問わず、上記2.(3)に示した類似業務の実績を記述し、それらの業務の経験が当該案件の実施にあたり有用であることを説明して下さい。類似業務とは、業務の分野(経済開発、農業等)、技術サービスの種類(フィージビリティ調査、施工監理等)、業務対象、業務規模などにおいて、蓄積された経験等が当該案件の実施に際して活用できる業務を指します。

別添様式2-3①では、類似業務としての的確なものを海外、国内を問わず、各社(共同企業体代表者及び構成員)で、それぞれ20件以内(原則として過去10年以内のもの)を選び、その実績を海外、国内に分け、年度ごとに記載して下さい。

別添様式2-3②では、別添様式2-3①の業務実績の中から、当該案件に最も類似していると考えられる実績(海外、国内を問わず)を、各社(共同企業体代表者及び構成員)で、それぞれ5件以内を選び、類似点等を記載して下さい。プロジェクトの目的、内容等、また、共同企業体で実施している場合は担当業務、何が当該業務の実施に有用なのかが分かるように簡潔に記述して下さい。

(2) 当該業務実施上のバックアップ体制（本邦／現地）

業務は、業務従事者が主体となって実施しますが、業務受注者が社としてどのような取り組みを行うか、またそのための支援体制をどのように敷くかについて十分に検討されていることも、業務を円滑かつ適切に進めるための重要な要件の1つとなります。このようなバックアップ体制とは、概ね、報告書の内容の審査・校閲のような業務に与える便宜や危機管理への対応等のロジスティクスのなもの、コンプライアンス体制（法令遵守の取り組み）と、有識者による業務支援体制のような業務内容に関わる技術的な内容になります。

記載する内容は、バックアップについての考え方及びそれを行う社内の組織・体制、該当者名等になります。また、社外の有識者等（大学教授、研究者等）によるバックアップを得られるような場合には、その体制、形態及びバックアップの内容等につき、当該有識者等の了解を必ず得た上で、具体的に記載してください。現地におけるバックアップ体制がある場合は、例えば自社の支店／海外事務所、現地連絡員、ローカルコンサルタント、大学や研究機関などについて、支援を受ける具体的な内容と併せて、それらの名称や連絡先等を記載してください。

社のコンプライアンス体制については別添様式2-4に記載してください。

ISO9000 シリーズの品質保証システム等を保有している場合には本項目で記載し、認定証の写しを添付してください。

また、ISO9000 シリーズの品質保証システム、次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定・プラチナくるみん認定」、若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」等を保有している場合には本項目で記載し、認定証の写しを添付してください。

なお、共同企業体を結成する場合は、その必要性及び責任体制についても記載してください。必要性が明確でない場合は減点対象となる可能性があります。

3. 2 業務の実施方針等

仕様書について応札者が理解した内容や課題認識、業務の基本方針などについて記述して下さい。他の文献等の内容を引用した場合には、その出典・引用元を必ず明らかにして下さい。

(1) 課題に関する現状認識

本業務にあたり、現時点で応札者が認識している以下の項目について整理の上、記述して下さい。記述は全体で5ページ程度として下さい。

1) ベトナムにおける農業分野の日本企業等（特に中小企業等）支援及び進出済企業の事業展開の現状と課題

(2) 業務実施の基本方針

「第2 仕様書」で示した内容及び上記（1）の課題に関する現状認識の下、応札者がどのような方針で業務に臨むのか、運営面及び技術面の観点から記述して下さい。

運営面では当該業務実施のために特に配慮すべき実施体制等を、また、技術面では当該業務の目的等を理解した上でどのような事柄に留意し業務を実施するのかを検討した上で記述して下さい。なお、「第2 仕様書」に記載されている調査項目を基にしつつも、調査に期待される成果に鑑み、追加すべき調査事項等あ

れば、提案して下さい。

(3) 作業計画

上記「(2) 業務実施の基本方針」での提案内容に基づき、業務全体をどのように実施していくか、その流れを示すフローチャートを別添様式2-5に示し綴じ込んで下さい。フローチャートは時系列に配慮した上で、業務項目間の相関関係等が明らかになるように作成して下さい。仕様書に示された業務工程と提案される作業計画との間に差異がある場合には、考え方について具体的に記述して下さい。

(4) 要員計画

業務を実施するために必要な要員計画を、仕様書に記載された業務従事者の構成(案)を参考に別添様式2-6で作成して下さい。各担当業務に従事予定の要員の配置及び担当事項が、業務実施の方法、業務工程と整合性があり、かつ妥当なものとなっているかどうか検討した上で作成して下さい。

評価対象業務従事者は担当業務、氏名、所属先及び格付の全てを記載して下さい。一方、評価対象外業務従事者の氏名及び所属先は記載しないで下さい(「未定」、「***」等と記載する)。

評価対象外業務従事者については予定従事者の配置の考え方(従事予定者が具備すべき専門性や当該分野での経験等)を記述して下さい。

仕様書で示した担当業務と異なる業務を提案する場合(例えば、複数の業務従事者が同一の業務を分割して担当する場合等)や、仕様書に示された業務量の用途と著しく異なる場合には、その考え方を具体的に記述して下さい。

(5) その他

相手国政府又は機構からの便宜供与等に関し、業務を遂行するに当たり必要な事項があれば記載して下さい。

3. 3 業務従事予定者の経験・能力等

「3. 2 業務の実施方針等」で提案された内容を実際に行う業務従事予定者の経験・能力等について記述します。

(1) 評価対象業務従事者の経歴

以下の要領に従い、当該業務に配置される業務従事者のうち、2.(2)3)で評価対象とされた業務従事者について、別添様式2-7①②③に記載して下さい。

ア. 「担当業務」は、当該業務において担当する業務分野名を記載して下さい。

イ. 「取得学位・資格」は、担当業務に関連する取得学位・資格につき、その学位・資格名、取得年月日を記載するとともに、取得資格については、可能な限りその認定証の写しを添付して下さい。技術士のように資格分野が複数ある資格は、その取得分野名も必ず記載して下さい。

ウ. 「外国語」は、次の「語学能力の基準」に基づき申告して下さい。ただし、語学能力の評価は、各種資格認定書に基づき実施しますので、その語学の認定資格を取得している場合は、その資格名と認定書の写しを添付して下さい。

【注意】英語については、技術提案書提出締切日を基準日として取得後10年以上経過した資格は語学評価の対象外とします（外国語圏の大学等の卒業について10年以上経っている場合は、経過年数により語学評価を逡減させます）。

＜語学能力の基準＞

(ランク)

- S－正確かつ流暢に高度な会話ができる。また、会議でのディスカッション及び技術レポートの作成をはじめ自己の専門分野はもちろんとして、他の分野についても正確な表現と理解が可能である。
- A－通常の会話と自己の専門分野の表現と理解はもちろんとして、技術レポートの作成・解読も可能である。ただし、会議でのヒアリングにはやや難がある。
- B－通常の会話と自己の専門分野の表現と理解は、十分とは言えないが可能である。また、技術レポートの作成・解読は、不十分ながら可能である。
- C－実用の域ではないが、通常の会話や技術レポートの作成・解読は、辞書を用いて辛うじて可能である。

なお、語学の認定資格については、次の「語学能力・資格の認定等について」に記載した語学の資格名を記載して下さい。

＜語学能力・資格の認定等について＞

1. 英語・フランス語・スペイン語については、次に掲げるいずれかの能力・資格の認定試験（又はこれらに準ずる資格試験）の結果を別添様式2-7①「評価対象業務従事者経歴書」の「外国語」欄に記載して下さい。（例：英検準1級、TOEIC 735点等）

＜英語＞

- (1) TOEIC（国際ビジネスコミュニケーション協会）
- (2) TOEFL（国際教育交換協議会）
- (3) 実用英語技能検定（英検）（日本英語検定協会）
- (4) IELTS（日本英語検定協会）
- (5) 国連英検（日本国際連合協会）
- (6) 通訳案内業（案内士）試験

＜フランス語＞

- (1) 実用フランス語技能検定試験（仏検）（フランス語教育振興協会）
- (2) フランス語資格試験（DELF・DALF）
- (3) フランス語能力認定試験（TEF）（パリ商工会議所）
- (4) フランス文部省認定フランス語能力テスト（TCF）
（国際教育研究国際センター）
- (5) 通訳案内業（案内士）試験

＜スペイン語＞

- (1) スペイン語技能検定（西検）（スペイン語技能検定委員会）
- (2) 外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）
（セルバンテス文化センター）
- (3) 通訳案内業（案内士）試験

2. 英語・フランス語・スペイン語以外の外国語については、特に指定はないので、現に保有の認定証等に基づき記載して下さい。

- エ. 「健康診断結果」は、最新の受診結果に基づき申告して下さい（契約に際し、診断書の提示を求めることがあります）。
- オ. 「学歴」は、高等学校から順に最終学歴まで、校名、学部・学科・専攻等及び卒業・修了・中退年月を記載して下さい。また、海外の高校及び大学等を卒業している場合は、その所在国名を記載して下さい。（例：〇〇大学（国名））
- カ. 「現職」は、現在の所属先の名称、所属先に採用された年月、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で、簡潔に記載して下さい。また、所属先の

確認を行うため、雇用保険については、確認（受理）通知年月日、被保険者番号、事業所番号、事業所名略称を記載して下さい。なお、何らかの理由で雇用保険に入っていない場合、健康保険について、被保険者記号一番号、交付日、保険者番号、保険者名称、事業所名称を記載して下さい。

上述の雇用保険情報又は健康保険情報が記載できない場合は、「雇用契約書（写）」等何らかの形で当該業務従事者が現在雇用されている事実が確認できる書類を添付して下さい。同じく、役員の方については、商業（会社）登記簿の謄本等何らかの形で役員である事実が確認できる書類を添付して下さい。

- キ. 「職歴」は、現職の直前の所属先から新しい順に、所属先の名称、所属した期間、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で、簡潔に記載して下さい。
- ク. 「業務等従事経歴」は、①海外における類似業務、②国内における類似業務、③海外でのその他の業務に分類し、それぞれについて最近のものから時系列順に記載して下さい。ただし、契約期間が複数年度にまたがる案件や複数年に及ぶ案件に従事した場合には、1案件として初年度分又は最初の業務にまとめて記載して下さい。「担当業務」については、各々の業務に従事した際の担当業務を正確に記して下さい。また、現地業務参加期間は、月数（小数点第1位まで）で記載します。仕様書を通じて担当業務の内容等を十分理解した上で、類似業務を選定して下さい。
- ケ. 「その他の海外渡航経歴」には、海外駐在、国際会議などの出席、留学及び海外派遣専門家等の経歴を記載して下さい。
- コ. 「研修実績」は、国内又は海外における研修受講実績について、研修先及び研修期間を記載し、研修内容を1～2行で、簡潔に記載して下さい。研修受講の認定書等があればその写しを添付して下さい。
- サ. 業務等従事経歴が別添様式2-7①だけでは記載しきれない場合には、別添様式2-7②に記載して下さい。
- シ. 「特記すべき類似業務の経験（類似職務経験を含む）」の記載にあたっては、当該業務に類似すると考えられる業務経験の中から、業務従事者（担当業務）の業務内容として最も適切と考えられるものを3件まで選択し、類似する内容が具体的に分かるように、別添様式2-7③に、業務の背景と全体業務概要、担当事項及び当該業務との関連性について記載して下さい。

3. 4. その他の技術提案書作成に係る留意事項

(1) 技術提案書の体裁等

ア. 体裁

技術提案書は正及び写ともに、色紙、写真台紙の使用は不可とします。

正のみフラットファイル綴じとします。表紙及び背表紙には、業務名、提出年月（西暦）、コンサルタント等の名称を表記して下さい。また、各章毎の見出しとしては、タックインデックスを使用して下さい。

写は、背表紙無し、2穴ひも綴じとします。表紙の表記及び各章毎の見出しは技術提案書（正）と同様として下さい。

イ. 形式

技術提案書は、A4版（縦）、原則として1行の文字数を45字及び1ページの行数を35行程度とします。関連する写真等を掲載する場合には、目次の前に綴じて下さい。

ウ. 構成・分量

「1. 技術提案書の構成」に記載した頁数を目安として作成して下さい。

4. その他の留意事項

- (1) 技術提案書等は本件業務の落札者を決定する目的以外に使用しません。
- (2) 落札者以外の技術提案書等にて提案された計画、手法は無断で使用しません。

別紙：評価表

評価表

評価項目	評価基準(視点)	配点
1. コンサルタント等の法人としての経験、能力		10
(1) 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野(内容)と形態、発注業務との関連性並びに実施国の類似性に鑑み総合的に評価する。 ● 類似業務はJICA発注業務に限らず、国際機関等での類似案件業務経験も評価する。国際機関や途上国政府機関からの直接受注については、業務実績の多様性等の観点から、高く評価する。 ● 国内における類似業務も、業務内容の類似度合いに応じ海外業務に準じて評価する。 ● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評価を与える。 	6
(2) 当該業務実施上のバックアップ体制(本邦/現地)	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地支援体制や社外有識者の支援など、業務の質・効率向上のための体制が整備されているか。支援内容が具体的か。 ● ISO9001等の品質保証システムの認証を受けているか。 ● 安全管理、報告書作成体制(校正や翻訳の質を確保するための体制)が整備されているか。 ● 次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定・プラチナくるみん認定」、若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」を受けている場合は評価する。 	4
2. 業務の実施方針等		40
(1) 課題に対する現状認識	<ul style="list-style-type: none"> ● 提示した課題について、広い視野から全体像が把握されているか。 ● 課題について総花的な記述ではなく、課題の核心を捉えた記述となっているか。 ● 抽象的な記述ではなく、具体的な事例や統計データ等に基づいた記述となっているか。 ● 記述内容について、適切に出典を伴った根拠が示されているか。 	16
(2) 業務実施基本方針の的確性	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の目的及び課題認識等に基づき業務実施のクリティカルポイントを押さえ、これに対応する業務方針が示されているか。 ● 途上国での業務という制約条件を適切に認識した業務実施の実現可能性や作業の具体性が確保されているか。 	18
(3) 作業計画・要員計画の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ● 提示された業務実施基本方針に見合った業務担当者の担当分野、格付の構成がなされているか、業務実施上重要な専門性が確保されているか。 ● 各業務従事者の配置期間が作業計画と整合したものであり、作業を適正に実施できる期間が確保されているか。 	6
3. 業務主任者及び業務従事者の経験・能力		50
(1) 業務主任者の経験・能力： 業務主任者/農業開発・政策		32

イ 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似業務の多寡、類似程度や関連業務実施の経験等に鑑み総合的に評価する。 ● 類似業務は機構の発注業務に限らず、国際機関等での類似案件業務経験も評価する。国際機関や途上国政府機関からの直接受注については、業務実績の多様性等の観点から、高く評価する。 ● 国内における類似業務も、業務内容の類似度合いに応じ海外業務に準じて評価する。 ● 最近10年程度の経験にプライオリティをおき評価する。 	10
ロ 対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価対象となる業務は海外業務全体とするが、視察、学会出席等は含めない。 ● 発注業務の質、効果効率の向上につながる経験を重視する。 ● 業務従事の長短を考慮する。 	8
ハ 語学力	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定の外国語レベルについて、検定等の成績を評価基準に照らして評価する。 	4
ニ 業務主任者等としての経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 最近10年に実施した業務主任経験（副業務主任経験を含む。）にプライオリティをおき評価する。 ● 海外業務の経験を国内業務に比し高く評価する。 	6
ホ その他学位、資格等	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去に発注業務と関連性の強い学歴（専門性）、資格などがあるか。 	4
(2) 業務従事者の経験・能力： フードバリューチェーン開発		18
イ 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似業務の多寡、類似程度や関連業務実施の経験等に鑑み総合的に評価する。 ● 類似業務は機構の発注業務に限らず、国際機関等での類似案件業務経験も評価する。 ● 国内における類似業務も、業務内容の類似度合いに応じ海外業務に準じて評価する。 ● 最近10年程度の経験にプライオリティをおき評価する。 	8
ロ 対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価対象となる業務は海外業務全体とするが、視察、学会出席等は含めない。 ● 発注業務の質、効果効率の向上につながる経験を重視する。 ● 業務従事の長短を考慮する。 	4
ハ 語学力	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定の外国語レベルについて、検定等の成績を評価基準に照らして評価する。 	3
ニ その他学位、資格等	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去に発注業務と関連性の強い学歴（専門性）、資格などがあるか。 	3

第4 経費積算に係る留意点

本業務に係る経費を積算するに際し、留意頂きたい点について記載しています。応札者は、以下に記載される留意点を十分理解した上で、経費の積算を行って下さい。

なお、当機構の「コンサルタント等契約」（本業務に係る契約も「コンサルタント等契約」です。）に係る業務価格の積算の考え方については、「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン」（下記 URL 参照）にて、その基本的な考え方が理解いただけるものと考えます。ただし、本件は入札による選定であり、同ガイドラインの適用対象外ですので、あくまで「考え方」の参考としてご参照下さい。

<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>

1. 本案件に係る業務量の目途

「第3 技術提案書作成要領」の2.（2）に記載している機構が想定する業務量の目途を参照して下さい。

2. 入札金額内訳の作成について

落札者に対しては、当該落札金額の内訳を示す入札金額内訳書（別添様式集第1 入札に関する様式 様式1-4 及び様式1-5 参照）の提出を求めます。入札金額内訳書の作成については次の通りとします。

（1）経費の費目構成

本業務で提出する入札金額内訳書においては、経費を構成する費目を次の通りとします（別添様式1-5 参照）。

費用項目	内 訳		内 容
I. 業務原価	1. 直接経費	(1) 航空賃	本邦又は第三国から対象国への航空賃
		(2) 現地関連費	①業務従事者にかかる日当・宿泊料などの旅費 ②現地通訳費、車両関連費等の現地で支出する直接経費
		(3) 国内関連費	国内で支出する直接経費
		(4) 機材購入費	機材購入費・輸送費等
		(5) 再委託費	業務の一部を再委託（下請負）するための経費（機構が認める場合に限る。）
	2. 直接人件費	現地及び国内において当該業務に従事する技術者の人件費	
3. その他原価	間接原価及び積上計上するものを除く経費		
II. 一般管理費等	業務を処理する受注者における経費等のうち業務原価以外の経費		

(2) 業務日数の人月換算

現地人月及び国内人月における日数から月数の換算は、現地業務期間、国内作業期間の各々について、要員配置の日数を合計し、現地業務期間は30日、国内作業期間は20日でそれぞれ割った数字の小数点以下第3位を四捨五入して小数点以下第2位まで算定して下さい。

(3) 定額で計上する経費

以下の直接経費については、以下に示す定額を入札金額に含めて計上することとし、契約金額に含めて契約することとします。契約業務完了に際しては、本定額経費について、証拠書類に基づいて実費精算させていただきます。

- ① 現地再委託に係る経費：5,000,000円
- ② 成果発信セミナーの開催費：1,000,000円

本定額計上の趣旨は、①、②に係る経費はその適切な積算が現時点では困難であることから、これを定額で入札金額に入れ込むように指示することにより、価格競争の対象としないということです。

これら定額で契約する経費については、「第5 契約管理及び契約金額の精算に係る留意事項」に記載の通り、証憑書類による精算を行います。

上記経費については、各支出項目・内容の妥当性を確認するため、経費の内訳が明らかになった段階（契約開始後～経費支出前）で2者打合せ簿により支出予定経費の内訳を確認します。また、精算時には支出項目／内容の妥当性を確認するため当該打合せ簿を証憑書類とあわせて提出します。

3. 消費税課税

積算金額の全額に8%を乗じた消費税を加算した額が最終的な契約金額となりますが、入札書に表示する金額は消費税を除いた金額を記載願います。

価格の競争は、この消費税を除いた金額で行います。

第5 契約管理及び契約金額の確定（精算）に係る留意事項

経費確定（精算）報告書の作成にあたっては、以下を参照して下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/20151013_02.html

1. 数量等の確認を必要とする費用

入札内訳書に記載される内訳別に、数量確認を必要とする費用を以下に示します。

数量等確認の有無については、「有」又は「無」の記載のとおりです。

費用項目	内 訳	数量等確認の有無	
I. 業務原価	1. 直接経費 ^{注)}	(1) 航空賃	有：渡航回数を確認
		(2) 現地関連費	有：現地業務人月（人日）を確認
		(3) 国内関連費	無
		(4) 機材購入費	有：購入された機材の内容と契約終了時の取扱いを確認
		(5) 再委託費	無：
	2. 直接人件費	無：	
3. その他原価	無：		
II. 一般管理費等	無：		

注) 定額計上するよう指示されている経費については、証憑書類に基づき実費精算する。

2. 請求金額確定の方法

(1) 精算を要しない金額の確定

受注者は業務完了時に、経費確定（精算）報告書を機構に提出し、併せてその数量を確認できる資料を提出して下さい。

1) 数量の確認が必要な金額の確定

経費確定（精算）報告書に監督職員の確認を受けた「業務従事者の従事計画・実績表」を添付して下さい。同表に基づき、業務人月（現地／国内）及び渡航回数を確認します。確認を経た金額が請求金額となります。

具体的な数量の確認方法は以下のとおり。

航空賃	<p>「業務従事者の従事計画・実績表」にて、渡航回数を確認します。</p> <p>個別の渡航に係る航空賃の実費を確認するのではなく、エコノミークラスとビジネスクラスに分けた渡航回数のみを確認し、契約書に記載された単価を乗じた金額を確定金額とします。ただし、契約書に記載された渡航回数を上限とします。</p>
-----	---

第5 契約管理及び契約金額の精算に係る留意事項

現地関連費	<p>「業務従事者の従事計画・実績表」にて、現地業務人月を確認します。現地の業務人月（人日）を確認し、契約書に記載された現地関連費の1人月（人日）あたりの単価を乗じた金額を確定金額とします。ただし、人月（人日）数量については、契約書に記載された現地業務人月（人日）を上限とします。</p>
機材購入費	<p>「購入機材リスト」にて購入された機材の種類・数量を確認します。</p> <p>契約書に記載された「購入すべき機材のリスト」のとおり種類・数量の機材が購入されているか確認します。併せて、契約終了時の機材の取扱い（現地事務所への返納又は現地政府関係者への譲与等）を確認します。</p> <p>適切に機材が購入され、現地業務終了時に適切に処理することが確認できれば、契約金額の内訳金額を確定金額とします。</p>

2) 数量の確認が不要な金額の確定

契約金額の内訳金額がそのまま請求金額となります。具体的には以下のとおりです。

1) 直接経費のうち

- ・国内関連費（入札において定額計上が指示されているものを除く。）
- ・再委託費（同上）

2) 直接人件費

3) その他原価

4) 一般管理費等

(2) 精算を要する金額の確定

定額計上するよう指示されている直接経費については、証憑書類（領収書等）に基づき実費精算することとなります。

経費確定（精算）報告書に添付する様式や証憑書類については、「業務実施契約における精算報告書の作成方法について」を参照して下さい。

また、証憑書類に第4 2. (3)に記載の経費内訳にかかる2者打合せ簿を添付ください。

3. 留意事項

受注者の責によらない止むを得ない理由で、業務量を増加させる場合には、機構と協議の上、両者が妥当と判断する場合には、契約変更を行うことができます。受注者は、かかる事態が起きた時点で速やかに担当事業部と相談して下さい。

本契約についても「業務実施契約における契約管理ガイドライン」が適用されます。しかしながら、上述のとおり、契約金額に「精算を要しない金額」が含まれ、これら金額については、同ガイドラインの適用が限定されることとなります。

適用の限定について、同ガイドラインの第4章「契約履行プロセスにおける具体的

な契約管理」にそって、具体的に記載すると以下のとおりです。

- (1) 契約締結時における確認事項
適用されます。ただし、「4) 要員に係る合意事項」のうち「c) 業務従事者の格付」については、入札によって既に契約金額に含まれるべき「直接人件費」が確定しているため、不要です。
- (2) 業務計画書等の提出
適用されます。
- (3) 費目間流用
「定額計上するよう指示されている直接経費」のみを対象に適用されます。
- (4) その他契約金額内訳に係る事項
「定額計上するよう指示されている直接経費」のみを対象に適用されます。ただし、「5) 旅費の分担について」は、定額計上か否かにかかわらず、適用されません。
- (5) 業務従事者の確定・交代
業務従事者の確定・交代については、「業務従事者の専門性の確認」並びに「補強、共同企業体の上限確認」の視点から確認させていただきます。
- (6) 現地再委託契約
「再委託費」が「定額計上するよう指示されている直接経費」である場合に限り、適用されます。
- (7) 機材調達・管理
「機材費」が「定額計上するよう指示されている直接経費」である場合、「1) 調達する機材の確認」、「2) 入札を行う場合の立会い」、「3) 選定の経緯と契約の内容の確認」が適用されます。
「4) 調達した機材の確認」については、定額計上か否かにかかわらず、適用されます。
- (8) 本邦研修受入れ
適用されます。
本邦研修受入れに係る直接経費は、原則「定額計上するよう指示されている直接経費」として取扱われることを想定しています。
- (9) 契約の変更
適用されます。
- (10) 不可抗力
適用されます。
- (11) 業務の完了
適用されます。ただし、「2) 継続契約がある場合の一般業務費の支出」については、当該一般業務費が「定額計上するよう指示されている直接経費」である場合に限りません。

以上

第6 契約書（案）

業務実施契約書

- | | | |
|---|------|--------------------------------|
| 1 | 業務名称 | 案件名 |
| 2 | 対象国名 | 国名（地域名） |
| 3 | 履行期間 | 2000年00月00日から
2000年00月00日まで |
| 4 | 契約金額 | 円 |
| | | （内 消費税及び地方消費税の合計額 円） |

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という。）と受注者名を記載（以下「受注者」という。）とはおのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

（契約書の構成）

第1条 本契約は、本契約書本体の他、本契約の一部としての効力を持つ次に掲げる各文書により構成される。

- （1）業務実施契約約款（以下「約款」という。）
- （2）附属書Ⅰ「共通仕様書」
- （3）附属書Ⅱ「特記仕様書」
- （4）附属書Ⅲ「契約金額内訳書」
- （5）附属書Ⅳ「業務従事者名簿」

（監督職員等）

第2条 約款第6条に定める監督職員及び分任監督職員は以下の職位にあるものとする。

- （1）監督職員： ●●部●●課（●●チーム）の課長
- （2）分任監督職員： なし

（「契約金額の精算」条項の変更）

第3条 本契約においては、約款第15条第1項に基づき受注者が請求できる金額は次の各号のとおり確定する。

- （1）直接経費のうち、航空賃及び現地関連費
航空賃については渡航回数を確認し、航空賃に係る契約単価を乗じて、航空賃内訳額の範囲内で金額を確定する。また、現地関連費については、現地業務人月（人日）を確認し、月額（日額）単価を乗じて、現地関連費内訳額の範囲内で金額を確定する。この場合において、現地業務人月（人日）とは、現地業務に係る直接人件費の対象となる人月（人日）を意味する。
- （2）直接経費のうち、国内関連費、機材購入費及び再委託費
国内関連費、機材購入費及び再委託費については、契約金額内訳の額をもって金額を確定する。
- （3）直接人件費、その他原価及び一般管理費等

直接人件費、その他原価及び一般管理費等については、契約金額内訳の額をもって金額を確定する。

(4) 直接経費の例外

前3号の規定にかかわらず、直接経費のうち、入札において定額計上するよう指示した以下の経費については、証拠書類に基づき精算を行い、金額を確定する。

- ・ ●●●●●●費
- ・ ○○○○○○○○費

2 前項の趣旨を踏まえ、約款第14条(契約金額の精算)及び約款第15条(支払)の規定を次の各号のとおり変更する。

- (1) 約款第14条第1項中「契約金額精算報告書(以下「精算報告書」という。)」を「経費確定(精算)報告書(以下、「経費報告書」という。)」に変更する。
- (2) 約款第14条第2項中「精算報告書」を「経費報告書」に変更し、「ただし、証拠書類については発注者が別に定める基準に従い、その全部又は一部の提出を省略することができる。」を削除する。
- (3) 約款第14条第3項から第5項を削除し、第3項として、「発注者は、第1項の経費報告書及び第2項の必要な証拠書類一式を検査の上、発注者が支払うべき額(以下「確定金額」という。)を確定し、これを受注者に通知しなければならない。」を挿入する。
- (4) 約款第15条第1項中「前条第4項の規定による確定金額」を「前条第3項の規定による確定金額」に変更する。

(共通仕様書の変更)

第4条 本契約においては、附属書I「共通仕様書」のうち、次に掲げる条項については、共通仕様書の規定によらず、次のとおり変更するものとする。

- (1) 第9条 業務関連ガイドライン
「(7)コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン(2018年5月)」を削除する。
- (2) 第26条 契約金額精算報告書
本条を削除する。
- (3) 第27条 航空賃の取扱い
本条を削除する。

※ 部分払を行う場合。

(部分払)

第○条 業務実施契約約款第17条第1項に定める部分払の対象とする一部業務については、以下の各号のとおりとする。

<例>

- (1) 第1回部分払：第○次中間報告書の作成
(中間成果品： 第○次中間報告書)
- (2) 第2回部分払：ドラフトファイナルレポートの作成
(中間成果品： ドラフトファイナルレポート)

本契約の証として、本書2通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、各自1通を保持する。

2000年00月00日

発注者
東京都千代田区二番町5番地25
独立行政法人国際協力機構
契約担当役
理事 植嶋 卓巳

受注者

業務実施契約約款

- ※ 内容については、こちらのサイトにある「契約約款」をご参照下さい。
https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/ku57pq00001mp316-att/completion_yakkan_201809.pdf

[附属書Ⅰ]

共通仕様書

- ※ 内容については、こちらのサイトにある「附属書Ⅰ(共通仕様書)」をご参照下さい。
https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/ku57pq00001mp316-att/attach01_201805.pdf

[附属書Ⅱ]

特記仕様書

- ※ 内容については、「第2 仕様書 Ⅱ. 特記仕様書」をご参照下さい。

[附属書Ⅲ]

契約金額内訳書

I 業務原価				
1 直接経費				
	内 訳	単 価(円)	数 量	金 額(円)
	(1) 旅費(航空賃)* 1) ビジネスクラス 2) エコノミークラス		○往復 ○往復	
	(2) 現地関連費*		○. ○○人月	
	(3) 国内関連費		一式	
	(4) 機材購入費		一式	
	(5) 再委託費		一式	
	小 計			
2 直接人件費				
	算 出 方 法			金 額(円)
	別表「直接人件費(内訳)」参照			
3 その他原価				
	算 出 方 法			金 額(円)
	小 計(1~3)			
II 一般管理費等				
	算 出 方 法			金 額(円)
III 小 計 (I + II)				
	消費税及び地方消費税の合計額(法令により定められた税率により算出)			
IV 合 計				

*「業務従事者の従事計画・実績表」をもとに数量を確認の上、精算金額を確定する。

【注：各費目内で定額計上分は分けて1式として記載し、【定額計上分・精算対象】と追記ください。】

別表：直接人件費内訳

2 直接人件費				
(1) 現地業務				
担当業務	格付 (号)	月額(円)	業務人月	金額(円)
小 計				
(2) 国内業務				
担当業務	格付 (号)	月額(円)	業務人月	金額(円)
小 計				
合 計				

[附属書Ⅳ]

業務従事者名簿

氏名	担当業務	所属先	格付	生年月日	最終学歴 ^(注1)	卒業年月
□原 ×子	交差点設計	新宿プランニング	2号	19**年**月**日	〇〇工業大学卒 △△△大学院修了	19**年3月 200*年9月
〇山 △男	交通計画Ⅱ	麴町設計	3号	19**年**月**日	〇〇工業高校卒	197*年3月

注1：業務従事者の最終学歴（卒業年月）が大学院卒以上の場合、大学学歴と大学卒業年月も併せて記載願います。

別添様式集

第1 入札に関する様式

- 別添様式 1-1 各種書類受領書
- 別添様式 1-2 入札書
- 別添様式 1-3 委任状
- 別添様式 1-4 入札金額内訳書
- 別添様式 1-5 入札金額内訳

第2 技術提案書作成要領に関する様式

- 別添様式 2-1 技術提案書頭紙
- 別添様式 2-2 技術提案書表紙
- 別添様式 2-3 類似業務の経験
- 別添様式 2-4 コンプライアンス体制
- 別添様式 2-5 作業計画
- 別添様式 2-6 要員計画
- 別添様式 2-7 評価対象業務従事予定者経歴書

各種書類受領書

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「各種書類受領書」をご参照下さい。
http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/index_since_201404.html

(別添様式1-2)

入札書

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構
 契約担当役 理事 殿

住所

商号／名称

代表者役職・氏名

印

印

案件名

(一般競争入札(総合評価落札方式))

案件番号：

標記の件について入札公告及び入札説明書に記載されている全ての事項を了承の
 うえ、一括下記のとおり入札いたします。

金								0	0	0	円
---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---

- * 消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、消費税は加算しないこと。
- * 金額は千円単位として下さい。
- * 上記金額は、定額計上分の●●について、●●円を含むものとします。

以上

(別添様式 1 - 2)

入 札 書

(再入札用：代理人を立てる場合)

20 年 月 日

独立行政法人国際協力機構
 契約担当役 理事 殿

住所
 商号／名称
 代理人氏名

印

案件名

(一般競争入札 (総合評価落札方式))

案件番号：

標記の件について入札公告及び入札説明書に記載されている全ての事項を了承の
 うえ、一括下記のとおり入札いたします。

金								0	0	0	円
---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---

- * 消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、消費税は加算しないこと。
- * 金額は千円単位として下さい。
- * 上記金額は、定額計上分の●●について、●●円を含むものとします。

以 上

(別添様式 1 - 3)

委任状

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役 理事 殿

住所
商号／名称 ⑩
代表者役職・氏名 ⑩

私は、弊社社員
します。

⑩ を代理人と定め、下記の事項を委任

委任事項

1. 「〇〇〇国（案件名）（案件番号：XXX）」について、2000年〇〇月〇〇日
に行われる貴機構の入札会への立会いと再入札に関する一切の権限
2. その他上記に関する一切の権限

以上

(別添様式 1 - 4)

入札書への添付は不要です。落札後、落札者のみから提出を求めるものです。
契約金額の内訳を協議するための資料ですので、押印は不要です。

入札金額内訳書

2000年 月 日

商号／名称

件名：案件名
(一般競争入札(総合評価落札方式))

標記一般競争入札において応札した入札金額の内訳を以下のとおり提示します。

I 業務原価	円
1 直接経費	円
(1) 旅費(航空賃)	円
(2) 旅費(日当・宿泊費及び内国旅費)	円
(3) 一般業務費(現地支出分)	円
(4) 一般業務費(国内支出分：報告書印刷費等)	円
(5) 機材購入費	円
(6) 再委託費	円
2 直接人件費	円
3 その他原価	円
II 一般管理費等	円
合 計 (入札額)	円
消費税及び地方消費税の合計金額	円
総 計 (契約金額)	円

(別添様式 1 - 5)

I 業務原価 円1. 直接経費 円(1) 旅費 (航空賃) 円

担当業務	航空券 クラス (C/Y)	回数	航空賃単価 (円)	金額 (円)
小 計				

(2) 旅費 (日当・宿泊費及び内国旅費) 円

担当業務	格付 (号)	滞在費				内国旅費 (円)	金額 (円)
		日当 (円)		宿泊費 (円)			
		×		×			
		=		=			
合 計							

(別添様式 1 - 5)

(3) 一般業務費 (現地支出分)

 円

費 目	内 訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備 考
合 計					

(4) 一般業務費 (国内支出分 : 報告書印刷費等)

 円

費 目	内 訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備 考
合 計					

(別添様式 1 - 5)

(4) 機材購入費 円

費目	内訳	単価(円)	数量	金額(円)	備考
合計					

(5) 再委託費 円

費目	内訳	単価(円)	数量	金額(円)	備考
合計					

(別添様式 1 - 5)

2. 直接人件費 円

(1) 現地業務

担当業務	格付 (号)	月額 (円)	現地業務	
			作業人月	金額 (円)
小 計				

(2) 国内業務

担当業務	格付 (号)	月額 (円)	国内業務	
			作業人月	金額 (円)
小 計				

3. その他原価 円

直接人件費

 円 × % = 円
II 一般管理費等 円

(直接人件費+その他原価)

 円 × % = 円

(別添様式 2 - 1)

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構
 契約担当役 理事 殿

《整理番号》
 《コンサルタント等の名称》
 《代表者名》 印

〇〇〇国《案件名》(案件番号：XXX)
 に係る技術提案書及び入札書の提出について

標記業務に係る技術提案書及び入札書を下記のとおり提出いたします。

提出にあたり、(共同企業体を代表して、)以下の項目について誓約いたします。

- (1) 本案件に関連し、独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程に基づく措置の対象となり得る行為を行わない。
- (2) 現在及び将来にわたって、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)に規定する「反社会的勢力」に該当せず、また関与・利用等を行わない。
- (3) 「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき、個人情報及び特定個人情報等を適切に管理できる体制を整えている。

記

技術提案書	正 1 部
	写 部
入札書	1 通

以上

(別添様式 2 - 2)

独立行政法人国際協力機構
〇〇〇国 《案件名》
(案件番号 : XXX)
技術提案書

年 月

整理番号
コンサルタント等の名称

担当者名 :
電話番号 :
FAX 番号 :
e-mail アドレス :
緊急連絡先 :

(別添様式 2-3)

類似業務の経験

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン（2018年11月版）様式」のうち、様式4-1（その1）及び（その2）をご参照下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal_201211.html

(別添様式 2-4)

コンプライアンス体制

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン（2018年11月版）様式」のうち、様式4-1（その3）をご参照下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal_201211.html

(別添様式 2-5)

作業計画

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン（2018年11月版）様式」のうち、様式4-2をご参照下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal_201211.html

(別添様式 2-6)

要員計画

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン（2018年11月版）様式」のうち、様式4-3をご参照下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal_201211.html

(別添様式 2-7)

評価対象業務従事予定者経歴書

- ※ 様式は、こちらのサイトにある「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン（2018年11月版）様式」のうち、様式4-5（その1）、（その2）及び（その3）をご参照下さい。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal_201211.html